



CAT XLS

MASAMI

取扱説明書 日本語訳版



日本正規輸入代理店
オネスト

はじめに 安全についてのご注意

この度はSchumacher社製1/10バギー CAT XLS MASAMIをご購入いただき誠にありがとうございます。

このCAT XLS MASAMIは

- ・ 14歳以上の方が対象年齢となっています。14歳以下のお子様には大人の方が付いてあげて下さい。
- ・ 小さなパーツを含みます。小さいお子様が手を触れないようにして下さい。また、小さなお子様の手の届かないところで組み立てて下さい。
- ・ 組み立ての際やご使用の際には、取扱説明書の注意書きをよく読んで下さい。
- ・ 不慣れな方は、車が正しく組み上がるよう、また車の性能が正しく発揮されるよう、経験のある方にアドバイスを受けましょう。
- ・ 工具やとがった部品がありますので使うときは十分注意して下さい。
- ・ 使用直後はバッテリー、モーター、ESCなどは高温になっていますので手を触れないようにして下さい。

★ キット標準のトランスミッションをご使用の場合、
17.5T以上のモーターをお使い下さい。★

走行までに別途ご用意頂くもの

下記については、このキットには付属していません。別途ご用意下さい。

- ・ 送受信機
- ・ バッテリー
- ・ モーターピニオン
- ・ モーター
- ・ サーボ
- ・ スピードコントローラー
- ・ その他工具類（シュー社作成取扱説明書裏表紙をご覧ください）

～次ページより組立説明が始まります。～

(Page ○) (Step ○ ○)

で示す数字やアルファベットは、シューマッカー社作成の取扱説明書のページ数や、作業工程とリンクさせています。図と照らし合わせてお読み下さい。

・ 英文での説明が無い作業工程や、わかりやすいイラストが付いている場合は日本語説明は省いております。

・ その他シュー社の取説に記載が無くとも、ご注意頂きたいことや、セッティング上のアドバイスなどは本紙で補足説明しております。

・ 図中で、強力接着剤を表すイラスト「H1057 スーパーグルー」は別売りです。キットには含まれておりません。

(Page 2)

(Step 2)

図は、当時のバッテリー搭載方法を再現したものです。(キット標準)
バッテリークランプのスクリューで調整します。

(Page 3)

(Step 3)

こちらはショートリポバッテリーを使用する場合の取付方法です。
(キット標準)

(Page 4)

(Step 4)

ベルトは図で示すように取り付けて下さい。

組み上げ前に図のようにアンダートレーをカットします。

(Page 5)

(Step 5)

エキセントリックは、一旦図のように取り付けておきます。

(Page 6)

(Step 6)

プーリーの上に接着剤(別売り)を塗布してガイドを取り付けます。

(Step 7 A)

IMPORTANT: 接着剤を塗布する前に、ワッシャーに油分が付いていないか確認して下さい。

IMPORTANT: ドライブシャフトとパーツが正しくかみ合い、奥までしっかりと押し込まれているか確認します。

(Page 7)

(Step 7 B)

IMPORTANT: ディスクスプリングが図のように装着できているか確認しましょう。

IMPORTANT: ナットは、一旦ディスクスプリングとフラットになるまで締め込んでから 1/4ターン分緩めます。

(Step 8)

IMPORTANT: 接着剤を塗布する前に、ワッシャーに油分が付いていないか確認して下さい。

IMPORTANT: ドライブシャフトとパーツが正しくかみ合い、奥までしっかりと押し込まれているか確認します。

(Page 8)

(Step 9)

IMPORTANT: 接着剤を塗布する前に、ワッシャーに油分が付いていないか確認して下さい。

IMPORTANT: ドライブシャフトとパーツが正しくかみ合い、奥までしっかりと押し込まれているか確認します。

IMPORTANT: インテグレーターセッティング *
スクリューは、一旦ディスクスプリングとフラットになるように締め込んでから 1/4ターン戻します。

IMPORTANT: ディスクスプリングは図のように組めていますか。

* インテグレーターについて
"インテグレーター"は、3つのプーリーで前後に駆動を伝達するシステムです。

(Step 10 A)

IMPORTANT: 図は、ユニバーサルジョイント・ドライブシャフト・アクスル・デフアウトプットの組上げ手順を一連に描いたものです。

NOTE: プラスチックパーツは温めておくと組立がしやすくなります。

(Page 9)

(Step 10 B)

IMPORTANT: 前ステップと同じように組んでいきます。

IMPORTANT: インテグレーターセッティングを調整するには、六角レンチを使ってドライブを反対側に回します。

(Step 11)

～イラストの都合上アンダートレーは描かれていません。アンダートレーは動かさないで下さい。～

まずは右リヤベルトから取り付けます。次にインテグレーター、左リヤの順に続けます。図の通りに組んで下さい。

(Page 11)

(Step 13)

エキセントリックは、ここでは一旦図のように取り付けておきます。

ベルトカバーは、組み上げる前に図のようにカットします。

フロントベルトのテンションを確認するためにφ3mmのホールを開けます。

(Page 12)

(Step 14)

アンチロールバーをロールバーボールにはんだ付けします。

(Step 15)

IMPORTANT: ロールバーはベルトの下に来ます。

(Page 13)

(Step 16)

IMPORTANT: 接着剤を塗布する前に、ワッシャーに油分が付いていないか確認して下さい。

IMPORTANT: ドライブシャフトとパーツが正しくかみ合い、奥までしっかりと押し込まれているか確認します。

(Step 17)

IMPORTANT: 接着剤を塗布する前に、ワッシャーに油分が付いていないか確認して下さい。

IMPORTANT: ドライブシャフトとパーツが正しくかみ合い、奥までしっかりと押し込まれているか確認します。

IMPORTANT: フロントデフセッティング
スクリューは、一旦ディスクスプリングとフラットになるように締め込んでから 1/4ターン戻します。

IMPORTANT: ディスクスプリングは図のように組めていますか。

(Page 14)

(Step 18)

IMPORTANT: ステップ10 Aと同じ手順で組んでいきます。

IMPORTANT: デファレンシャルを調整するには、六角レンチを使ってドライブを反対側に回します。

IMPORTANT: トランスミッションハウジングが正しい位置に入るよう、シャーシとトップデッキを曲げます。

(Page 15)

(Step 19 A)

IMPORTANT: ここでは緩いままにしておきます。

(Page 16)

(Step 19 B)

NOTE: サイドのフレームは図の都合で省かれています。

リヤベルト調整

リヤベルトのテンションは、六角レンチでベルトの上から押して確認します。エキセントリックは一番緩いポジションになっています。図が示す矢印の方向に回してベルトを締めていきます。両サイドが同じように組めているか確認しましょう。

IMPORTANT: リヤベルトのテンションは、フロントベルトのテンションより常に先に調整します。

フロントベルトの調整

フロントベルトのテンションは、六角レンチでベルトの上から押して確認します。フロントベルトのテンションをきつくするときは、フロントトランスミッションハウジングを前方に引っ張ります。後方へ押すと緩みます。ちょうどいいテンションになったら、ナットを十分に締め込みます。

(Page 17)

(Step 20)

IMPORTANT: ブロックの向きに注意して下さい。

(Page 18)

(Step 22)

IMPORTANT: 左右ピボットブロックの（車に対する）向きを確認して下さい。角の形で見分けられます。

NOTE: トランスミッションハウジングから一旦スクリューを外します。サスアーム組み上げ時に再度使用します。

IMPORTANT: ピボットピンは、ピボットブロックにとてもきつくフィットします。

(Page 19)

(Step 23)

IMPORTANT: 左右ピボットブロックの（車に対する）向きを確認して下さい。角の形で見分けられます。

IMPORTANT: ピボットピンは、ピボットブロックにとてもきつくフィットします。

NOTE: トランスミッションハウジングから一旦スクリューを外します。サスアーム組み上げ時に再度使用します。

(Step 24)

IMPORTANT: ピボットピンは、サスペンションマウントにとてもきつくフィットします。

(Page 20)

(Step 25)

IMPORTANT: ピボットピンは、サスペンションマウントにとてもきつくフィットします。

(Step 26)

NOTE: バンパーはイラスト作成の都合上省いてあります。

NOTE: Oリングは引っ張ってクラッシュバックフックに装着します。

(Page 21)

(Step 27)

IMPORTANT: ピボットピンは、ピボットブロックにとてもきつくフィットします。

(Page 22)

(Step 29)

リヤ左ハブ

IMPORTANT: ステップ10 Aと同じ手順で組んでいきます。

(Page 23)

(Step 30)

リヤ右ハブ

IMPORTANT: ステップ10 Aと同じ手順で組んでいきます。

(Page 24)

(Step 31)

フロント左ハブ

IMPORTANT: ステップ10 Aと同じ手順で組んでいきます。

(Page 25)

(Step 32)

フロント右ハブ

IMPORTANT: ステップ10 Aと同じ手順で組んでいきます。

(Page 26)

(Step 33)

リヤ左ハブ / リヤ右ハブ

IMPORTANT: ピボットピンは、サスペンションマウントにとてもきつくフィットします。

IMPORTANT: スクリューの先がウィッシュボーンに当たるところまで、ゆっくり締め込んでいきます。

(Page 27)

(Step 33)

フロント左ハブ / フロント右ハブ

IMPORTANT: ピボットピンは、サスペンションマウントにとてもきつくフィットします。

IMPORTANT: スクリューの先がウィッシュボーンに当たるところまで、ゆっくり締め込んでいきます。

(Page 33)

(Step 34)

IMPORTANT: ブロックの向きに注意して下さい。

(Step 35)

IMPORTANT: Cリングの入れ方に注意して下さい。角が丸い方を先に入れます。強く押し込みすぎてはいけません。溝に正しくはまっているかも確認して下さい。

両ショックは同じように組んで下さい。

(Page 34)

(Step 37)

プライヤーを使うときは、図の矢印が指す部分をつかみます。ショックロッドにダメージが及ばないように気をつけましょう。

ピストンを上下にゆっくり動かし、空気がショックボディの上部まで上がってくるようにします。

シャフトはボディに十分に押し入れて下さい。

ダイヤグラムをボディに付けます。ショックからこぼれたオイルは捨ててからキャップをしっかり閉めて下さい。

ショックはスムーズに動かなければいけません。

まずは2mmのスペーサーからスタートして、後々必要に応じて増やしていきます。

(Page 35)

(Step 38)

IMPORTANT: Cリングの入れ方に注意して下さい。角が丸い方を先に入れます。強く押し込みすぎてはいけません。溝に正しくはまっているかも確認して下さい。

両ショックは同じように組んで下さい。

(Page 36)

(Step 40)

プライヤーを使うときは、図の矢印が指す部分をつかみます。
ショックロッドにダメージが及ばないよう気をつけましょう。

ピストンを上下にゆっくり動かし、空気がショックボディの上部まで上がってくるようにします。

シャフトはボディに十分に押し入れて下さい。

ダイヤグラムをボディに付けます。ショックからこぼれたオイルは捨ててからキャップをしっかりと閉めて下さい。

ショックはスムーズに動かなければいけません。

まずは4mmのスペーサーからスタートして、後々必要に応じて増やしていきます。

(Page 37)

(Step 41)

IMPORTANT: クリアランスが無いよう、ショックマウンティングスクリューとナットを一度、全て締め込みます。そのあと全て1/2ターン分緩めます。これは、サスペンションの動きに影響が無いようにするためです。

NOTE: ここではバンパーはイラストの都合上省いてあります。

(Page 38)

(Step 42 / 43)

IMPORTANT: ロック剤を扱う際は注意が必要です。
ナットにはほんの少量だけ使います。ピボットの上にはみ出ないようにして下さい。
ステアリングは組み上げ後、自在に動かなければいけません。

(Page 39)

(Step 45 A)

ターンバックルのソケットは、ホール底部に届くまで慎重に締めていって下さい。それから始めの長さまで戻します。このやり方ですと車の調整が楽になります。(グリスを付けるとより扱いやすくなります)

IMPORTANT: ターンバックルのねじ切りについてご注意下さい。

図の右部分 = 左方向 / 左部分 = 右方向 に切ってあります。

NOTE: リヤトラックロッドは、2つとも同じ長さにして下さい。車を組み上げた後に調整します。

NOTE: フロントトラックロッドは、2つとも同じ長さにして下さい。車を組み上げた後に調整します。

(Page 40)

(Step 46)

IMPORTANT: 前ステップ45 Aと同じ手順でターンバックルを組みます。

NOTE: ここではバンパーはイラストの都合上省いてあります。

(Page 41)

(Step 47)

IMPORTANT: ブロックの向きに注意して下さい。

(Step 48)

IMPORTANT: ウィングは、装着前、図のように直径4mmの穴をリーマーなどで開けます。

(Page 42)

(Step 49)

IMPORTANT: 電源を入れ、サーボをニュートラル位置にしてサーボセイバーを取り付けます。

IMPORTANT: サーボセイバーには直径3mmの穴を開けます。

IMPORTANT: ステップ45 Aと同じ手順でターンバックルを組みます。

(Page 43)

(Step 50)

ギアがスムーズに動くようにクリアランスの調整をして下さい。

(Page 44)

(Step 51)

IMPORTANT: ホイールやアクスルにダメージが及ぶ場合がありますので、4本のスクリューは締めすぎないように注意して下さい。

IMPORTANT: ドライブシャフトとパーツが正しくかみ合い、奥までしっかりと押し込まれているか確認します。ベアリングが破損しないように慎重に行います。

(Step 52)

組立前にボディとギヤカバーをカットします。

IMPORTANT: ボディポスト用の穴を開けます。

NOTE: キットにはギヤカバーが入っています。ギヤカバーをお使いになる場合、ボディによっては装着用の穴が必要になります。

オプションパーツ

(Page 45-47)

U7236 プロトランスミッションアップデート

・プーリー

プライヤーを使ってプーリーにガイドをはめ込みます。ガードの向きには注意が必要です。右上の図を見て確認して下さい。

・リヤ/ フロントデフ

ディスクスプリングがフラットになるまで締め込んでいきます。それから1/4ターン分緩めます。

・ドライブシャフト

ドライブシャフトとパーツが正しくかみ合い、奥までしっかりと押し込まれているか確認します。

・ディスクスプリング

図の通り組めているか確認します。

・レイシャフト

レイシャフトガードにグルーを塗布する際は注意が必要です。ベアリング装着位置やプーリーの歯にグルーがはみ出してこないようにして下さい。

・ベルトテンション

前後ベルトのテンションをセットします。 ステップ19 Bをご覧ください。

・スリッパークラッチ

多くのコースではスリッパークラッチをタイトな状態でスタートするのが望ましいです。そこから徐々にドライビングが安定するまでスプリングのテンションを締めていきます。決して過剰に緩めたまま走らせないで下さい。プラスチックのスパークギアが溶けてしまう場合があります。

使用可能モーター：最大6.5Tまで

構成パーツ

・ U7154 スパー83T	・ U7241 フロントベルト
・ U3869 スリッパセット	・ U7242 リヤベルト
・ U3364 スリッパパッド	・ U7239 レイシャフト
・ U3136 ベアリング 5X8X2.5	・ U7244 トランスミッションOリング
・ U4124 シム 5X7X0.4	・ U4943 ベアリング 1/8X1/4 ×2
・ U4106 スリッパースプリング	・ U7216 スラストベアリング 1/8X5/16X9/64 ×2
・ U7281 カーバイドボール 3mm×2	・ U7155 ベアリング 8X16X5 ×2
・ U4869 スプールフェンス ×2	・ U7142 インテグレーターアクスル×2
・ U4899 ウィッシュボーンスラストワッシャー×2	・ U7158 インテグレーターワッシャー×2
・ U4238 アルミ皿ビス M3X16	・ U7144 ドライブシャフトマウント×2
・ U7238 リヤデフプーリー&フェンス	・ U7243 アルミワッシャーキャリアー×2
・ U7237 フロントデフプーリー&フェンス	

(Page 48)

U7235 リヤロールバーキット

ロールバーボールにアンチロールバーをはんだ付けします。

ロールバーのあそびがなくなるよう、イモネジで調整します。

ターンバックルは、ステップ45 Aの手順で組んで下さい。

シューマッカー社および輸入代理店オネストは、お客様の商品組み立て・保管・使用時のいかなるけがにも責任を負うことは出来ません。説明書をよくお読みになって正しくご使用下さい。

商品の保証については、改造していない車・パーツにのみ適応されます。走行時のクラッシュ、間違った組み方・使い方・調整の仕方や、メンテナンス不足などお客様側に起因するクレームには応じかねます。

シューマッカー社は素材の選択から設計に至るまでその品質に注力しておりますが、この商品は玩具ではなく繊細なハイパフォーマンスモデルですので慎重に扱って下さい。

サーキット以外の公共の道路など他の方の迷惑になる場所では走行しないで下さい。

エンジンやパーツなど消耗品の定期的な交換や必要なメンテナンスについてはお客様の責任においてしっかり行って下さい。

品質向上のため、商品のディテールが予告なく仕様変更される場合がありますがご了承下さい。

この商品の初期不良などに関するご質問は、お買い求めになったお店か、下記輸入代理店までお申し出下さい。

お問い合わせ先：Schumacher社製品 日本正規輸入代理店 オネスト

オネスト 〒522-0201 滋賀県彦根市高宮町2098-4

電話： 0749-22-3747

ファックス： 050-3664-4608

メール： info@teamhonest.jp

ホームページ： teamhonest.jp/

*** 営業時間：平日9:30~18:30**

(お電話は18時頃までにお問い合わせ致します)